

## 2. 流域及び河川の自然環境

### 2-1 流域の自然環境

阿武隈川流域は、その流域内に数多くの自然公園等が分布しており、本川源流域には「日光国立公園」、西に「磐梯朝日国立公園」、東に「阿武隈高原中部県立公園」、<sup>りょうぜん</sup>「霊山県立自然公園」、北には「蔵王連峰国定公園」が存在し、これらの山々に囲まれた豊かな自然環境を呈している。この他に、阿武隈川沿川に添うようにして小規模な自然保全地域等が点在し、中でも福島県指定名勝及び天然記念物に指定されている「阿武隈峡」や、宮城県立自然公園となっている「阿武隈渓谷」などの狭窄部が変化に富んだ良好な河川景観を形成している。



磐梯朝日国立公園



阿武隈渓谷

【上写真出典：環境省自然環境局 HP】

【下写真出典：宮城県環境生活部 HP】



図 2-1 阿武隈川流域の河川区分図

阿武隈川流域の自然環境は、その地形状況により東側の阿武隈山地と、西側の奥羽山脈、並びに福島県中通り、宮城県南部の河口平野部の四地域に区分される。

阿武隈山地は標高1,192.5mの大滝根山を最高峰とする高原状の山地である。阿武隈山地には、イヌブナにモミ、イヌシデ等を交えた針葉樹と広葉樹の他、アカマツ、スギ、ヒノキの造林地が多く見られる。動物ではニホンザル、イノシシ、アナグマ、キツネ、タヌキなどが生息している。

奥羽山脈は、阿武隈川流域の西部を南北に縦断する山脈で蔵王山、吾妻山、安達太良山、那須岳等の火山が多く、随所に温泉地がある。標高2,000m級の山峰が連なる雄大な景観を有し、地形も複雑である。ブナを主体とした原生林が各所に残っているが、標高1,000m以下ではアカマツ、スギ、カラマツ等の造林地が多くなっている。動物では、ツキノワグマ、カモシカ、ニホンザル、アナグマ、タヌキ等の生息が確認されている。

福島県中通り地方は、阿武隈川沿いに低地が発達し、市街地、水田、耕地等が多く、自然林は少なくなっている。

また宮城県南部の河口平野部についても市街地、水田、耕作地が多い他、河口付近では干潟や塩沼地が形成され、カモメやウミネコ等の海鳥が多く見られる。

## 2 - 2 河川の自然環境

### (1) 河川環境の特徴

阿武隈川の地形は、平地と狭窄部が交互に出現し、これにより河床勾配も 1/200 ~ 1/4,000 と変化に富み、河床材料も砂礫帯や岩の露出区間など様々な様相を見せることから、阿武隈川に生息する動植物もこれに応じて多様な形態を見せる。

阿武隈川全川での特徴は、カモ類の集団分布地が点在しており、シギやチドリ類の渡りの中継地、サギ類の集団増等、鳥類の重要な生息環境が形成されていることである。

また水域では、河口から 83 kmにある信夫ダムの直下まで天然のアユやサクラマス・サケが遡上、瀬・淵が連続し砂礫河床となっている早瀬でアユやサケの産卵が見られ、堰堤上流ではオイカワ、ウグイ、ニゴイや放流アユ等が生息し、現在の条件に適應した魚類の分布となっている。特にアユは阿武隈川らしさを代表する魚であり、平成 14 年には尺アユが確認されている。

植物では、植物特定種であるタコノアシ、カワヂシャ、ミクリ等の湿性植物が河川敷内の随所に見られる。

この全川での特徴に加えて、山間溪流部では清流に見られるイワナやヤマメ等の魚類が多く生息し、また上流部、中流部などの高水敷に分布するヨシ・オギ類にはカヤネズミが生息、阿武隈峡、阿武隈渓谷などの狭窄部ではカワセミ、カワガラス等が生息するなど、各区間の地形条件、流相等を元にした区域特有の河川環境が形成されている。

このように阿武隈川の河川環境は、山地環境から平地環境まで各区域で特有の河川環境が形成され、福島市等の市街地が位置する中流域でも魚類の産卵や鳥類の集団分布が形成されるなど、良好な河川環境が維持されている状況にある。

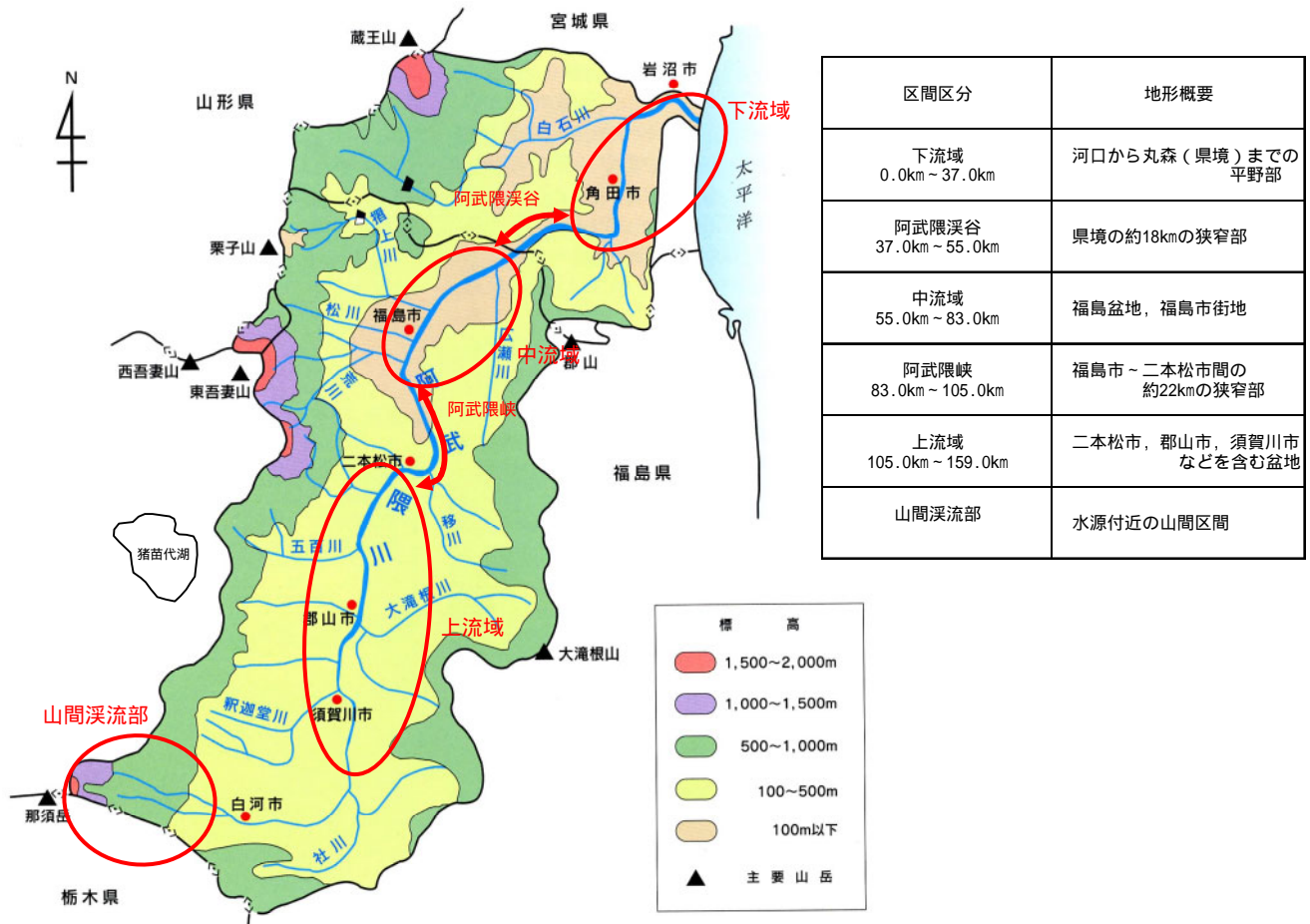


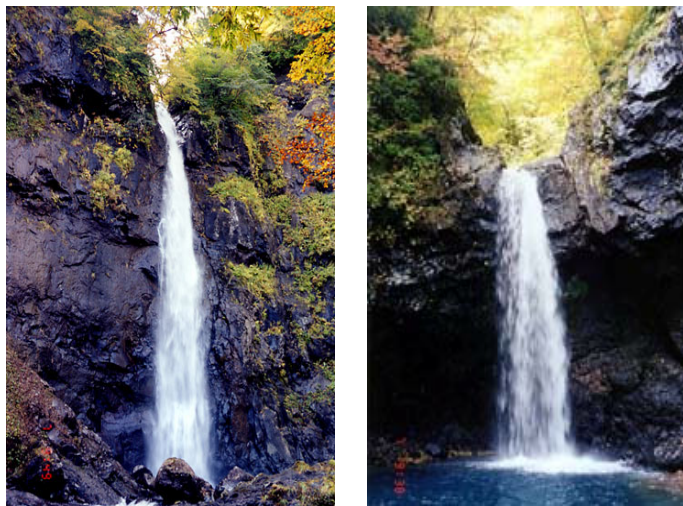
図 2-2 阿武隈川における河川環境区分 ←→ 狭窄区間

## (2) 山間溪流部の自然環境

奥羽山脈の雄大な連峰を源とする源流部は、樹枝状の水系を呈しており、福島県「ふるさと清流」として「ふくしまの水 30 選」のひとつに挙げられている。三本槍岳の北東斜面に源を発する沢には、隠れた名瀑といえる雄滝と雌滝が懸かる他、源流である旭岳や甲子山を源とする沢にも多くの滝が見られる。甲子温泉付近から東流する流路は、甲子溪谷、雪割溪谷（雪割峡）などの峡谷が白河付近まで続いている。瀨の続く西郷瀨付近はV字谷となり、両岸は高さ 40 メートルにわたり曲型的な柱状節理（溶岩が冷却し固まる際に体積収縮によってできた柱状の割れ目）を形成している。

植物分布については、源流部は、ブナを主体とする原生林が分布している。下流の溪谷沿いは、ブナーミズナラ群落、ナラ等の広葉樹林帯となっており、雪割橋付近には、クマシデ、コナラ、アオハダなどに混じって、福島県内の西限に当たるイヌブナ林が見られる。

溪流沿いで見られる鳥類としては、ミソサザイ、キセキレイ、カワガラス、オオルリ、キビタキなどが挙げられ、まれにアカショウビンも飛来する。瀨、淵の連続する溪流にはイワナ、ヤマメ、カジカなど清流に見られる魚種が多く生息している。



～隠れた名瀑 雄滝（写真左）と雌滝（写真右） 【出典：福島県 HP】



阿武隈川の山間溪流部では、多くの滝が見られ、V字谷を呈している。

【出典：福島河川国道事務所 HP】

(3) 上流域 (105.0km ~ 159.0km 付近)

須賀川市から郡山市，二本松市区間の盆地を流下する上流域は、流れも緩やかで、沿川には郡山市等の都市が形成されている。都市域を流れる区間では、高水敷等の整備が進められていることから広く帰化植物群落が形成されている。

この人工草地や耕作地にはヒバリやスズメが生息する他、開けた高水敷を採餌場としてオオタカ等の猛禽類が見られる。また水際にはヨシやオギ等の湿生草地があり、オオヨシキリ等の鳥類やカヤネズミの営巣地となっている他、水際の湿潤な場所にはタコノアシ等の湿性植物が生育する。水面に張り出した樹木の枝には獲物をねらうヤマセミ，カワセミが見られ、エノキ等の樹林が小面積ながらも形成されオオムラサキの生息場となっている。

水域では、瀬淵の連続する場所にアユ(放流)が生息し、穏やかな淵にはギンブナ，ニゴイ等が生息している。またメダカやゼニタナゴ等の緩流域<sup>かんりゅういき</sup>を好む種の生息が確認されている。

なお、白河盆地と須賀川盆地の境にある溪流区間には、日本の滝百選にも選ばれている「乙字ヶ滝」が存在し、壮大な流れを見せている。



阿武隈川上流域では、沿川に水田と樹林地が交互に接しており、流れは瀬淵を創り出している。

【出典：福島河川国道事務所 資料】

[ 代表的な動植物 ]



オオヨシキリ



ヤマセミ



カワセミ



メダカ



ゼニタナゴ

【出典：福島河川国道事務所資料】

【出典：国土交通省 HP】(カワセミ)



【出典：須賀川市HP】

[ 乙字ヶ滝 ]

「日本の滝百選」に選ばれている。乙の字をなして激しい水しぶきをあげて流れ落ちることが名前の由来。水かさが増すと約 100 メートルの川幅一杯に落瀑して、小ナイアガラの感がある。松尾芭蕉も「五月雨の 滝降りうづむ 水嵩哉」という句を詠んでいる。

(4) 阿武隈峡 (83.0km ~ 105.0km 付近)

上流から中流にかかる阿武隈峡は河床勾配 1/30 ~ 1/300 程度、平均で 1/75 と急流で、岩肌が露呈する V 字谷を形成している。流れは大きく蛇行し、小規模な瀬淵が連続して数多く分布している。この区間の河川景観は、蓬萊岩や稚児舞台等をはじめとする数多くの奇岩が点在し、壮大な峡谷景観となっており、福島県指定名勝及び天然記念物となっている。

両岸にはコナラやエノキ等の山間樹林地があり、モリアオガエルやオオムラサキ等が生息し、ヤマセミやカワガラスが河岸の樹林、岩の上などから獲物をねらっている。またオオタカやハイタカ、ノリス等が採餌場として利用している。

水域では、早瀬の水裏等に砂泥底を好むスナヤツメ等が生息しており、また河口から 83 kmにある信夫ダムの直下まで天然のアユやサクラマス・サケが遡上し、砂礫河床となっている早瀬はアユやサケの産卵場となっている。一方、信夫ダム上流部にはオイカワ、ウグイ、ニゴイや放流アユ等の陸封型魚類が生息している。



阿武隈峡では、壮大な峡谷景観を呈しており、小規模な瀬淵が連続する

【出典：福島河川国道事務所 資料】



[ 稚児舞台 ]

両岸の奇岩怪石がせまり阿武隈川が大きく蛇行し滝や瀬、瀨場が千変万化の景観を見せる。「平安時代の武将、源義家の凱旋を巨岩の上での稚児の舞で歓迎した。」と言うのが名前の由来。

【出典：福島河川国道事務所 資料】



[ 蓬萊岩 ]

阿武隈川の中に、中国の蓬萊山をそのままに再現したと言われる奇岩が突き立っており、この岩の間に松が生え、蔦がからまりつき、いかにも蓬萊山の状景を見せている。

【出典：福島河川国道事務所 HP】

(5) 中流域 (55.0km ~ 83.0km 付近)

福島盆地を流下する中流域は、河床勾配 1/1000 ~ 1/740 程度と比較的緩やかな流れとなり、川幅もやや広くなる。沿川には福島市街地が形成されており、高水敷は帰化植物の形成が多く見られる。

高水敷の人工裸地等にはヒメムカシヨモギ - オオアレチノギク群落、アレチウリやセイタカアワダチソウ等の外来植物群落が分布しているものの、水際の湿潤な場所にはカワヂシャやナガエミクリ等の湿性植物やヨシ・オギ群落、ヤナギ類等が水際線を形成している。

これらヨシ・オギ類は、オオヨシキリ等の鳥類やカヤネズミの営巣地となっている他、水面に張り出した樹木の枝には獲物をねらうカワセミが見られる。また冬季にはマガモ、オナガガモ、カワアイサ等のカモ類やオオハクチョウ、コハクチョウ等の渡り鳥が飛来し、開けた開放水面や砂礫地を採餌場、休息地として利用している。

水域では、砂礫河床となっている早瀬で天然アユやサケの産卵場となっている他、ギバチが瀬の水際部の石下や物陰に潜んでいる。

[ 代表的な動植物 ]



福島盆地を流れる区間では、高水敷の整備がなされ、帰化植物の形成が多く見られる

【出典：福島河川国道事務所 資料】



コハクチョウ



サケ

【出典：福島河川国道事務所 資料】



写真上：阿武隈川らしさを創出するアユ（尺アユ）

写真右下：河床礫に多く見られるアユのみ跡

【出典：福島河川国道事務所 資料】



アユの産卵床が連続する中流域（福島市）

【出典：福島河川国道事務所 資料】

(6) 阿武隈溪谷 (37.0km ~ 55.0km 付近)

中流から下流にかかる宮城・福島県境の阿武隈溪谷は、河床勾配 1/400 程度と流れの変化に富み、山間を蛇行し、瀬淵の連続する区間となっている。この溪谷は花崗岩で形成されており、廻り石をはじめとして数多くの奇岩が点在し、岩肌の続く溪谷美を呈し、宮城県立自然公園に指定されている。

この区間は古くから舟運が行われており、藩政時代には江戸の商人である渡辺友意が福島から河口までの航路を開削し、舟運が盛んに行われていた。今も当時の舟番所跡を残しており、現在では、阿武隈川舟運の歴史と阿武隈溪谷美を活かした観光舟下りが行われ、観光地としても名高い区間である。

沿川はコナラやケヤキ等の山間樹林地で、水際にはツルヨシ群落等が見られ、部分的に形成される水際の湿潤な場所にはタコノアシやカワヂシャ等の湿性植物が生育する。また、ヤマセミ・カワセミ・カワガラス等が水際に張り出した枝や岩の上から獲物をねらい、水域では天然アユやサケ・サクラマスの上が見られる。

[ 代表的な動植物 ]



阿武隈溪谷は数多くの奇岩が点在する溪谷美を呈している。  
沿川に樹林地が多くあり、流れは蛇行して瀬淵が連続している。

【出典：福島河川国道事務所 資料】



【出典：福島河川国道事務所 資料】



[ 廻り石 ]

弘法大師がこの岩を杖で突いたところから水が噴き出した伝説がある。舟下りの際の名勝となっている。

【出典：福島河川国道事務所 資料】



[ 阿武隈川ライン下り ]

丸森は古くから阿武隈川の舟運で栄え、その名残りを伝えているのが、名物「舟下り」です。両岸は県立自然公園となっていて、阿武隈溪谷のすばらしい景観が続き、見飽きる事はありません。

【出典：福島河川国道事務所 資料】

(7) 下流域 (0.0km ~ 37.0km 付近)

仙台平野の南部を流れる下流域は、河床勾配が 1/3700 ~ 1/2000 程度と緩く、川幅も広く、雄大な流れをみせており、沿川には<sup>かくだ</sup>角田市、岩沼市街地が形成されている。

広い高水敷にはオギやヨシ等の群落形成されており、オオヨシキリやセッカ等の生息場となっている他、ヨシ原の所々に見られるワンド状の地形ではマコモ群落やヒメガマ群落等の抽水植物群落分布し、トンボ類が生息している。水際の湿潤な場所にはタコノアシやカワヂシャ、ミクリ等の湿性植物も生育している。またミサゴやハイタカ等の猛禽類が採餌場として利用している。

水域の砂礫河床となっている早瀬は天然アユやサケの産卵場となっている他、コイ、モクズガニ等数多くの水生動植物が確認されている。

河口では大規模な干潟やワンドが形成されており、砂地には海洋性のハマニクヤコウボウムギの砂丘植物群落やシオクグ等の塩沼植物群落が広く生育している。

鳥類では、カモメ類の集団<sup>ねぐら</sup>場となっている他、シギ・チドリ類やサギ類の渡り鳥がカニ類を含む甲殻類、貝類、ゴカイ類を採餌し、休息地にもなっている。

水域には、汽水性のボラやアシシロハゼ等が生息している他、シラウオやアユ等の回遊魚も見られる。

河口部には、阿武隈川と名取川、北上川までの舟運を図るために掘削された貞山運河が存在する。この運河は藩政時代には安定した物資の輸送路確保として、仙台藩初代藩主伊達政宗の命により家臣川村孫兵衛重吉が名取川河口から阿武隈川までの海岸線と平行に木曳堀<sup>きびきぼり</sup>を開削し、その後北上川まで延伸され、日本一長い貞山運河<sup>ていざんうんが</sup>として現在も舟運全盛時代の面影を残している。

[ 代表的な動植物 ]



下流域では、広い高水敷が見られ、オギ、ヨシ等の群落形成されている。

【出典：仙台河川国道事務所 資料】



ハマシギ

【出典：福島河川国道事務所 資料】



河口部にはワンドが形成され、カモメの集団場等になっている。左岸側には貞山運河が見られる。

【出典：仙台河川国道事務所 資料】



ボラ

【出典：福島河川国道事務所 資料】

(8) 阿武隈川における特定種

阿武隈川における特定種を、河川水辺の国勢調査等の調査結果をもとに、レッドデータブック・レッドリスト（環境省）記載種、天然記念物指定種等の学術上又は希少性の観点から抽出した。

表 2-1 阿武隈川における特定種リスト

	選定理由
特定種	<p>学術上又は希少性の観点から重要であると考えられる種。</p> <p>(魚類) スナヤツメ、ゼニタナゴ、ホトケドジョウ、ギバチ、メダカ</p> <p>(底生動物) マルタニシ、モノアラガイ、アミメカワゲラ、コオイムシ</p> <p>(植物) マルバヤナギ、キクザキイチゲ、ウスバサイシン、ナガミノツルキケマン、タコノアシ、シモツケソウ、オオタチツボスミレ、ギンリョウソウ、カワヂシャ、ヤマホタルブクロ、ミクリ、ナガエミクリ、サイハイラン、シュンラン、オニノヤガラ、ミヤマウスラ、ジカバチソウ、クモキリソウ、コケイラン、ヒトツボクロ、ホソバイヌタデ、カザグルマ、アキノハハコグサ、ミズアオイ、オオクグ</p> <p>(鳥類) ミゾゴイ、トモエガモ、ミサゴ、オオタカ、ハイタカ、ハヤブサ、ノジコ、チュウサギ、マガン、チュウヒ、コアジサシ</p> <p>(陸上昆虫) ワスレナグモ、スジグロチャバネセセリ、ミヤマシジミ、オオムラサキ、ババアメンボウ、コオイムシ、タガメ、ホシチャバネセセリ、カワラハンミョウ、ゲンゴロウ</p>

[ 特定種の選定根拠 ]

- ・天然記念物指定種（国、県）
- ・「種の保存法」指定種
- ・レッドデータブック（環境省）記載種・・・植物、両生類、は虫類
- ・レッドリスト（環境省）記載種・・・魚類、鳥類、哺乳類、昆虫類
- （参考）福島県、宮城県レッドデータブック

2 - 3 特徴的な河川景観や文化財等

(1) 特徴的な河川景観

阿武隈川には、多くの自然公園、自然環境保全地域が存在することから分かるように、数多くの自然環境が作りだす名勝地が存在する。特に、阿武隈峡、阿武隈渓谷の他に、日本の滝百選に選ばれている「乙字ヶ滝」等があり、すばらしい河川景観を呈しており観光名所にもなっている。

平野部を流れる区間でも、「隈畔」は吾妻連峰を背景に流れる阿武隈川の風光明媚な趣を醸しだし、また「岡部」には毎年10月の末頃から多くの白鳥が飛来し、人々の心をいやす存在になっている。



岡部地区

オオハクチョウとコハクチョウ合わせて約 700 羽が訪れる。オナガガモ、マガモ、コガモ、アメリカカヒドリガモやトモエガモ、オカヨシガモなどの珍しい鳥の姿を見ることができる。

【出典：福島河川国道事務所 HP】

[ 稚児舞台 ]

両岸の奇岩怪石がせまり阿武隈川が大きく蛇行し滝や瀬、瀬場が千変万化の景観を見せる。



【出典：福島河川国道事務所 資料】



凡 例	
<span style="color: red;">●</span>	: 国立・国定公園
<span style="color: orange;">●</span>	: 県立自然公園
<span style="color: lightgreen;">●</span>	: 県立自然環境保全地域
<span style="color: darkgreen;">●</span>	: 緑地環境保全地域



阿武隈渓谷

両岸は県立自然公園になっており、数多くの奇岩が点在し、渓谷美を呈している。 【出典：福島河川国道事務所 資料】



隈畔～「阿武隈川の河畔」を略した造語  
吾妻連峰を背後に流れる阿武隈川の風光明媚な趣は常に人々の心をいやす存在であり、明治以降には若山牧水や竹久夢二、森鷗外などの多くの文化人が訪れ、名作の構想を練ったり執筆活動を行ったと言われている。 【出典：福島河川国道事務所 HP】



乙字ヶ滝

日本の滝百選に選ばれた乙字ヶ滝。松尾芭蕉が「奥の細道」道中で「五月雨は滝降りうづむ水かさ哉」と詠んだ。

【出典：福島河川国道事務所 HP】

図 2-3 阿武隈川流域の自然公園

(2) 文化財，史跡

今から2,500~3,000年前の縄文時代にはすでに、人々が阿武隈川流域に定住していたということは、数々の遺跡により明らかにされている。縄文時代の遺跡は、福島盆地周辺部、土湯付近に集中し、特に、二本松市周辺の安達太良山麓や微高地および丘陵に遺跡が集まっており、郡山地区では盆地周辺と熱海町の高地に遺跡が数多く分布している。また下流域の角田市にも遺跡が発見されており、古くから阿武隈川流域に広く人々が定住していたことが分かる。

また史跡には平安時代や戦国時代、江戸時代のものも存在し、源頼朝と奥州藤原氏の合戦跡や伊達家城跡、有名なものでは東北への玄関口であり、芭蕉も通った「白河関跡」が存在する。

文化財には、古くは鎌倉時代の石仏や室町時代の神社、江戸時代の名家跡などが残されており、このことから古くから阿武隈川流域に生活文化が根付いていたことが伺える。

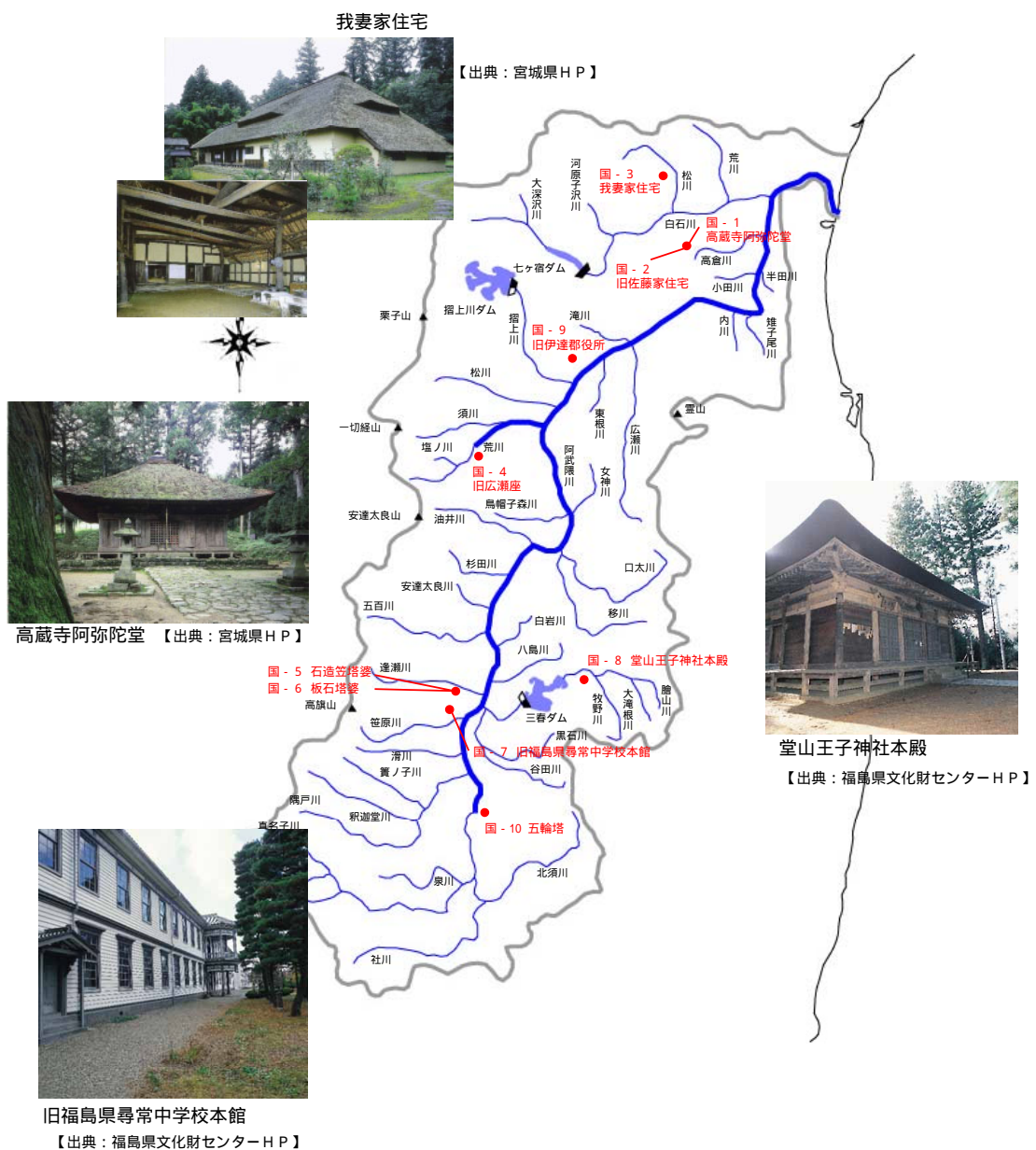


図 2-4 阿武隈川流域の主な文化財 位置図

表 2-2 阿武隈川流域の主な文化財

指定	No.	名称/所在市町村	概要
国	国 - 1	高蔵寺阿弥陀堂/宮城県 角田市	治承元年(1177)頃の建立と伝えられ、平安時代に流行した浄土信仰に伴って建立されたもので、本県最古の建築である。方3間、低い廻縁(まわりえん)をめぐらした宝形(ほうぎょう)造、茅葺の素木(しらき)造で、巨大な円柱に単純な舟肘木(ふなひじき)のをせる一軒(ひとのき)の簡潔な架構で、装飾を加えない単純素朴な姿である。
	国 - 2	旧佐藤家住宅/宮城県 角田市	18世紀中頃の建築で、仙台領内の中規模農家。間口14.9m・奥行7.8mの直屋形式。屋根は寄棟造、茅葺で、前面にはこの地方特有の櫛形破風の煙出しを付ける。間取りは広間型三間取であるが、広間(ちゃのま)と土間庭との境に間仕切りがなく、三間取が成立する以前の古い姿をとどめている。
	国 - 3	我妻家住宅/宮城県 蔵王町	我妻家は蔵王町の山村地帯にある古い由緒をもつ家で、蔵王町宮の白鳥明神の禰宜(神主の下、祝の上に位する神職)を勤めていたので禰宜屋敷とよばれている。また、かつて建物の全長が25間あったので「二十五けん」と呼ばれていたという。
	国 - 4	旧広瀬座/福島県 福島市	梁川町に明治時代から続く芝居小屋で、回り舞台装置や棧敷席があるなど本格的な造りのものです。解体修理を行う際に福島市民家園に移されました。
	国 - 5	石造笠塔婆/福島県 郡山市	鎌倉時代初めにつくられた、この時代に流行る板碑(いたび)のさきがけとなるものとして貴重なものです。
	国 - 6	板石塔婆/福島県 郡山市	鎌倉時代にたてられたもので、曼陀羅(まんだら、仏教の世界観をあらわしたもの)が彫られています。
	国 - 7	旧福島県尋常中学校本館/福島県 郡山市	明治時代の建築の特徴をよくあらわした学校校舎で、昭和52年に国指定の重要文化財となっています。
	国 - 8	堂山王子神社本殿/福島県 船引町	室町時代の後期のカヤ葺き(補修後銅板葺き)、寄棟屋造りの大変貴重なものです。
	国 - 9	旧伊達郡役所/福島県 桑折町	福島県伊達郡役所は明治16年に現在地に建てられました。この建物は、東北地方に残る郡役所の建物の中でも当時の姿をよく残しているもののひとつです。
	国 - 10	五輪塔/福島県 玉川村	石川地方の豪族、石川氏の祖先の墓に建つ墓石で、時代が刻んである(治承五年: 1,181年)大変貴重なものです。

国指定文化財

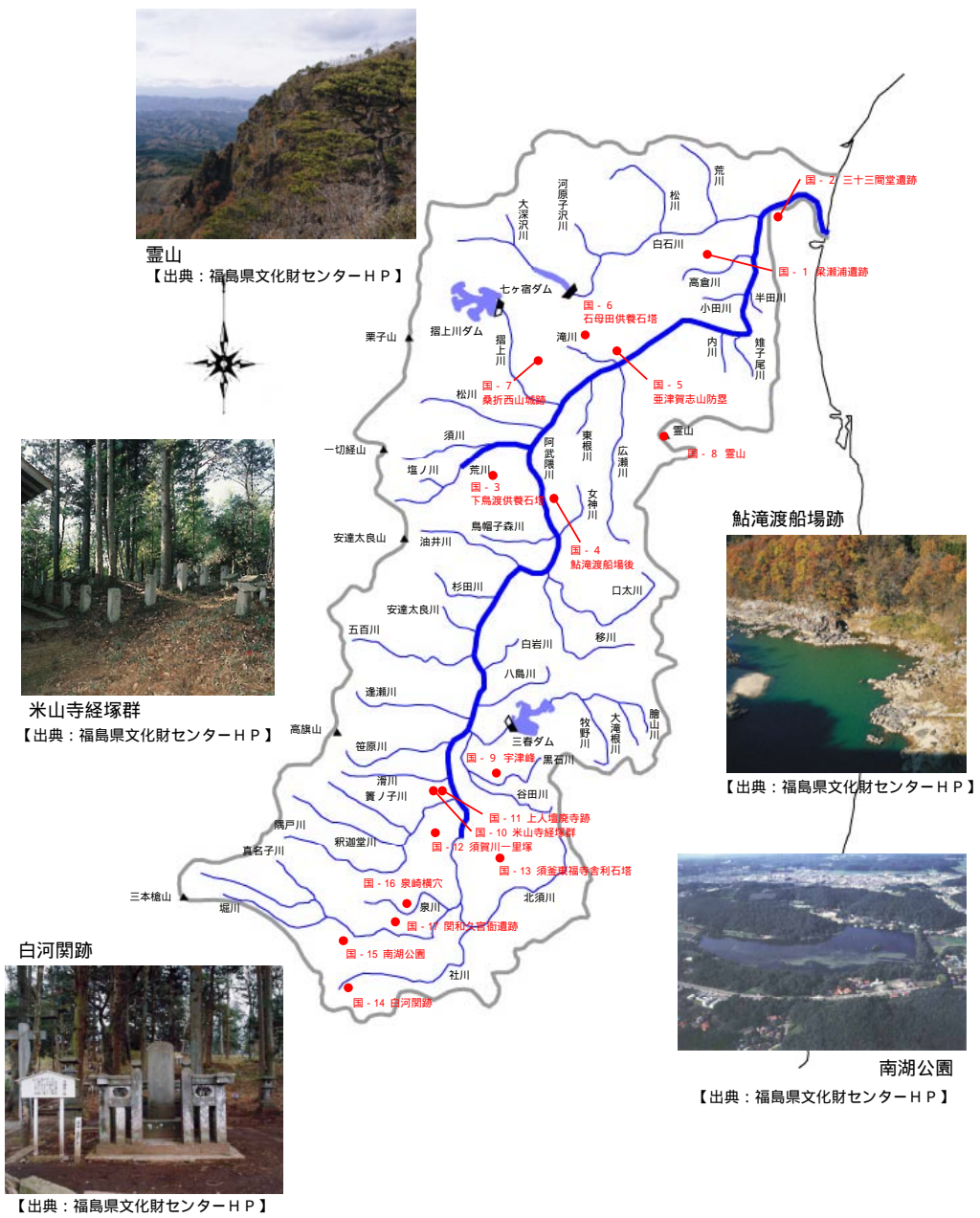


図 2-5 阿武隈川流域の主な史跡 位置図

表 2-3 阿武隈川流域の主な史跡

No.	名称/所在市町村	概要
国 - 1	梁瀬浦遺跡/宮城県 角田市	角田市北部の高さ2mほどの低い台地上に立地する縄文時代から弥生時代にかけての遺跡。台地上の平坦部から縄文時代後期の竪穴住居跡、中期・晩期の土墳墓が発見された。縄文時代後期・晩期の良好な遺物包含層も検出された。包含層は斜面部から水田下の湿地帯にまで及んでおり、植物遺存体や骨角製品の埋蔵も想定される。
国 - 2	三十三間堂遺跡/宮城県 亘理町	平安時代の亘理郡家と考えられる。阿武隈山地の北端にあり、標高44mほどの小高い丘陵上に立地する。平地との比高は40mである。遺跡の範囲は東西500m、南北750mで、古くから多数の建物の礎石が整然と並んでいることが知られていた。
国 - 3	下鳥渡供養石塔/福島県 福島市	阿弥陀如来を中心にした阿弥陀三尊の姿が浮き彫りにされている鎌倉時代の板碑で、平氏ゆかりの女性が亡き母の供養のために建てたものです。
国 - 4	鮎滝渡船場跡/福島県 福島市	江戸時代から伊達郡と信夫郡を結ぶ重要な交通路の途中にある阿武隈川の渡し場で、明治八年まで使われていました。
国 - 5	阿津賀志山防塁/福島県 国見町	源頼朝が奥州藤原氏を攻めた奥州合戦の激戦地で、藤原氏側の防御線として阿津賀志山から阿武隈川まで約4kmにわたって堀と土塁が造られました。
国 - 6	石母田供養石塔/福島県 国見町	鎌倉時代に石の供養塔を建てるのが盛んになりますが、この石塔には中国から日本にきた僧寧一山によって書かれた、供養塔を建てる意義が彫られています。
国 - 7	桑折西山城跡/福島県 桑折町	伊達植宗が天文元年(1532)に梁川城からこの城に移り、その子晴宗の代に米沢に移るまで陸奥国守護の居城として重要な役目を果たした城でした。
国 - 8	霊山/福島県 霊山町	周囲に断崖が広がる景色のすばらしい山で、平安時代に寺が建てられ、室町時代の初めには陸奥国司の城として一時的に東北地方の政治の中心地となりました。
国 - 9	宇津峰/福島県 郡山市	自然の地形を利用した山城で、室町時代の初めころ、南朝方が立てこもって戦いをしました。
国 - 10	米山寺経塚群/福島県 須賀川市	平安時代末頃のお経を納めた陶器製の筒の容器を埋めた塚で、ほぼそのままの形で残っている貴重なものです。
国 - 11	上人壇廃寺跡/福島県 須賀川市	屋根を葺いた瓦や寺の建物の配置がわかる跡が見つかった貴重な地方の寺院跡です。
国 - 12	須賀川一里塚/福島県 須賀川市	奥州道中に作られた道しるべの塚で、高さ3mくらいの塚が2つ残っています。
国 - 13	須釜東福寺舍利石塔/福島県 玉川村	鎌倉時代の初めに仏教の思想に基づいて建てられた石の塔で、内部に舍利を入れたと思われる穴があいています。
国 - 14	白河関跡/福島県 白河市	関東地方から東北地方に伸びる古代の東山道にあった、東北地方への入口の関所跡で、建物の跡も見つかっています。
国 - 15	南湖公園/福島県 白河市	松平定信公が中国の名園を模して造った公園で、湖畔には楓やサクラが植えられており、現在でも市民の憩いの場となっています。
国 - 16	泉崎横穴/福島県 泉崎村	壁や天井に人物や馬が描かれた墓で、刀なども見つかり、装飾された横穴タイプのお墓として大変貴重なものです。
国 - 17	関和久官衙遺跡/福島県 泉崎村	白河地方の古代の役所跡と考えられる遺跡で、多くの建物跡や外側を区画する溝の跡が見つかっています。

### (3) イベント・観光等

阿武隈川流域には、阿武隈川本川及び支川の水面，高水敷等を利用し、桜祭りや夏祭り，花火大会などのイベントが多数存在している。また観光等については、松尾芭蕉が「おくのほそ道」旅中に「五月雨は滝降りうづむ水かさ哉」と詠んだ乙字ヶ滝や、高村光太郎の「智恵子抄」の中で「あれが阿多多羅山、あの光るのが阿武隈川」と謳われた阿武隈川の良好な河川景観がある。

#### 阿武隈ライン舟下り



【出典：丸森町HP】



#### 白河関まつり



【出典：白河ネットHP】

#### 阿武隈川いかだ下り大会



【出典：角田市HP】

#### 飯野堰堤桜まつり



【出典：飯野町HP】

図 2-6 阿武隈川流域のイベント・観光

表 2-4 阿武隈川流域の主なイベント・観光

項目	イベント名/市町村名	概要	備考
桜まつり	飯野堰堤桜まつり/飯野町	昭和13年の飯野堰堤の完成を記念して、町をあげて造られた公園です。ダムから上流にかけて延々2kmにも及ぶ桜並木を誇り、4月中旬には満開の桜トンネルが川面をピンクに染め、町内外の花見客で賑わいます。また、四季折々の自然美を楽しめる遊歩道や展望広場を備え、清らかな水辺と緑の調和した空間が訪れた人の心を和ませてくれます。	
	一目千本桜/大河原町	平成2年3月3日、大河原町を2分してながれる白石川の堤が、隣の船岡城跡公園とともに(財)日本さくらの会により、「さくらの名所100選の地」に選ばれました。春4月、残雪の蔵王連峰をバックに、白石川河畔は染井吉野を中心とする「一目千本桜」が延々8キロメートルにわたり咲き誇り、人びとは花の下の宴を楽しみます。	白石川
	須賀川さくらまつり/須賀川市	4月上旬～下旬にかけて開催されます。釈迦堂川と須賀川(下の川)の両岸には、それぞれ2km、1kmにわたり桜並木が続いています。夜にはライトアップされ、川面に美しい姿を映すその夜桜は、須賀川の風物詩の一つとなっています。	釈迦堂川
夏祭り (花火大会)	白河開まつり/白河市	白河開まつりは、花火大会、フリーストリートフェア、バンドの演奏やかき氷の早食い大会が行われ、多くの参加者でにぎわいを見せている。	
	須賀川市釈迦堂川全国花火大会/須賀川市	県内最大級の規模を誇り、直径500mまで広がる二尺玉や、華美絵巻(音楽と花火の競演)、全国各地の花火師が製作した全国選抜尺玉の競演、ビッグファイヤー、超特大スターメイン、国際花火、ナイアガラなど見応え十分な花火約1万発が夜空を賑わします。	
	ふくやま夢花火/郡山市	富久山町の夏の風物詩、ふくやま夢花火。直径30cmの尺玉の打ち上げが、最大の見所となっている。堤防の上からは、打ち上げ場所を見下ろすことができ、点火するところを見ることが出来る。	
	ふくしま花火大会/福島市	福島を彩る鮮やかな花火。約15,000発の打ち上げ数は県内最大級で、空中ナイアガラや特大スターメインなど、川面に映る花火は風情があります。	
	流灯会/福島市	明治37年以降の伝統をもつ阿武隈川河畔で行われてきた灯籠流しに、昭和58年から市民有志による花火大会が加えられた伝統的なイベント。川面に約7000個の灯籠が流され、福島夏の風物詩となっている。	
	いわぬま市民まつり花火大会/岩沼市	岩沼市民総参加の一大イベントで、毎年4万人位の来場があり、花火大会等各種イベントが開催されます。	
その他イベント	全日本あぶくまカップ大会/東和町	カヌースラローム・ワイルドウォーターの愛好者からトップクラスの選手までが参加し、阿武隈川の自然の流れを使って競技が行われます。また、スラロームジャパンカップ大会が行われ、年間の成績により日本代表選手として世界選手権・オリンピック参加選手の選考の場ともなっています。	
	全日本阿武隈ウォーター大会/東和町	平成7年第50回国民体育大会カヌー競技大会開催を契機にポスト国体として開催している大会です。全国からジュニアの選手が出場し、2日間をかけて、500m、2000mの競技が行われます。平成12年度は工事を進めてきた1,000mコースが完成し、今回オープン種目として実施する予定です。	
	阿武隈ライン舟下り/丸森町	丸森は古くから阿武隈川の舟運で栄え、その名残りを伝えているのが、名物「舟下り」です。両岸は県立自然公園となっていて、阿武隈渓谷のすばらしい景観が続く、見飽きる事はありません。	
	阿武隈川いかだ下り大会/角田市	川への親しみと河川美化PRのために市民が発起人となって始められたもので、現在は角田市と丸森町の共催で、7月末または8月第1日曜日に開催されています。丸森町丸森橋河川敷から角田市角田橋河川敷までの全長14kmの河川内のコースを下り、毎年、40チーム前後・約300人参加し、阿武隈川の夏の風物詩となっています。	
観光等	剣桂/西郷村	西郷村内の馬立に建立されている「剣桂神社」の境内にある巨大な桂の木が「剣桂」です。桂の木の幹に剣が深々と突きささっているためこの名があります。樹高約35m、樹齢は300年におよぶといわれている古木です。ブナ・ミズナラ・イタヤカエデ・トチなどが繁茂していることから、自然散策にはもってこいのエリアとして地域の人々に親しまれています。	
	雪割渓谷/西郷村	阿武隈川の渓谷、両岸には絶壁があり、雪割渓谷と呼ばれている。ここから西の郷遊歩道、西郷浄の自然探勝に適した場所があり、若葉萌える春と、一面が燃え立つような朱色に染まる秋の景観はすばらしい一語につきます。	
	乙字ヶ滝/須賀川市	乙の字をなして激しい水しぶきをあげて流れ落ちる、日本の滝百選のひとつである「乙字ヶ滝」。岩盤の崩壊のため往時ほどではなくなりましたが、水かさが増すと100メートルの川幅一杯に落瀑して、小ナイアガラの感があります。俳聖・松尾芭蕉も須賀川を立出する日。わざわざこの滝を見物しに訪れ、「五月雨の滝降りうづむ 水嵩哉」という句を詠んでいます。	
	鞍石山/安達町	「あれが阿多羅山、あの光るのが阿武隈川」この有名な、高村光太郎の「智恵子抄」の一節は、智恵子の生まれた安達町の生家の近くの鞍石山(くらしやま)の山頂でつくられました。現在、この山頂には「樹下の2人」の石碑が建てられ、また、ベンチも並べられて、日和の良い日は、人々が散策に訪れます。	
	蓬菜岩/福島市	阿武隈川の中に、中国の蓬菜山をそのまま再現したと言われる奇岩が突き立っており、この岩の間に松が生え、葛がからまりつき、いかにも蓬菜山の情景を見せています。この頂上には「雨宮大権現」があります。また、岩の中腹には空洞があり、かつては大蛇が住んでいたと言われていました。	
	隅畔/福島市	「阿武隈川の河畔」を略した造語。かつての福島城跡であり、江戸時代盛んであった阿武隈川舟運の基地でもありました。吾妻連峰を背後に流れる阿武隈川の風光明媚な趣は常に人々の心をいやす存在であり、明治以降には若山牧水や竹久夢二、森鷗外などの多くの文化人が訪れ、名作の構想を練ったり執筆活動を行ったと言われています。	
	水辺の学校/福島市	福島市の中心部を流れる阿武隈川天神橋～渡利大橋間の河川敷約8.8haを利用して、自然環境の保全と新たな水辺空間の創出を目的として整備がなされている。子供たちが水辺に近付きやすいよう護岸は緩やかな斜面に、水生植物や小魚と触れ合えるように「ワンド」と呼ばれる石を積み上げた人工の入江なども整備しています。	
	岡部/福島市	福島市の東部、岡部地区を流れる阿武隈川の川面には、毎年10月の末頃から約700羽の白鳥が飛来します。その他、オナガガモ、マガモ、コガモ、さらに、アメリカヒドリガモやトモエガモ、オカヨシガモなどの珍しい鳥の姿も見る事ができます。	
	広瀬川河川公園/梁川町	広瀬川は、宣城・福島県境から約7キロメートル地点で阿武隈川に合流する右支川であり、昭和61年8月には洪水により梁川町に甚大な被害を及ぼしました。現在では昭和61年度から行われた河川改修事業で河川が整備され、親水公園等ができた町民の方々の憩いの場となっています。	
	材木岩/七ヶ宿町	小原温泉より上流9キロメートル街道随一の奇観。石英安山岩の柱状節理に成る高さ100メートルの材木を並べたような壮観が延々200メートルに連なり、昭和9年5月1日天然記念物に指定されました。自然科学ハイキングコースとして四季共に推奨されています。	

2 - 4 自然公園等の指定状況

阿武隈川流域内には、流域水源部を囲うように3つの国立・国立公園と6つの県立自然公園が存在する他、阿武隈川沿川を添うようにして小規模な県立自然環境保全地域および緑地環境保全地域が多数存在する。自然公園の指定面積は、国立・国立公園 79,190ha、県立自然公園 10,902ha、県立自然環境保全地域 3,242ha、緑地環境保全地域 430ha であり、全体で約 94,000ha (流域外も含む) にも及び、阿武隈川流域での割合は約 8%程度である。

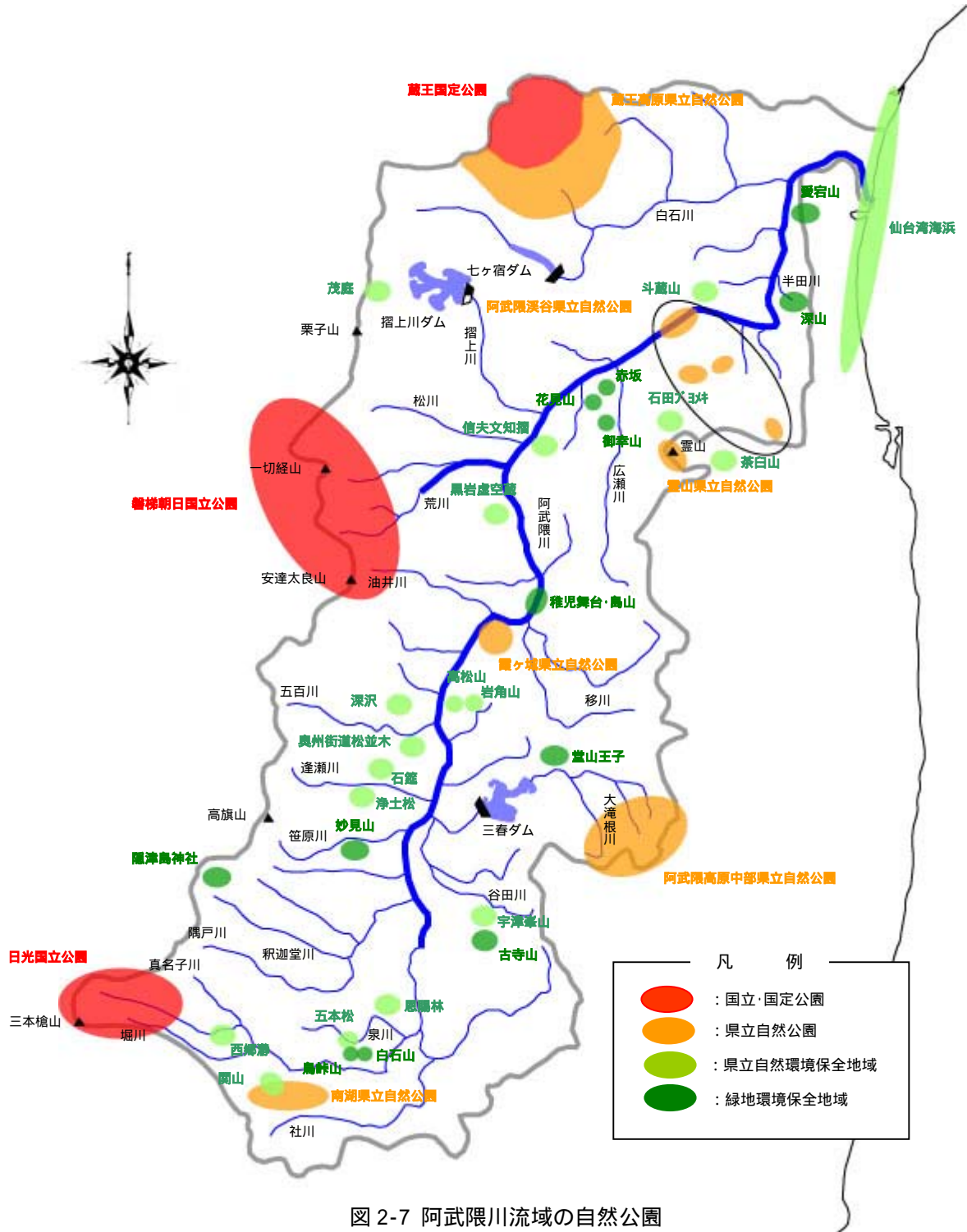


図 2-7 阿武隈川流域の自然公園

表 2-5 阿武隈川流域の自然公園等指定状況

指定項目	公園・緑地名	関係市町村	面積 ha	指定年月日	備考
国立・国定公園	国-1 蔵王国定公園	仙台市, 白石市, 蔵王町, 川崎町, 七ヶ宿町	21	S38.8.8	
	国-2 磐梯朝日国立公園	福島市, 郡山市, 二本松市, 喜多方市, 会津若松市, 大玉村, 北塩原村, 猪苗代町, 磐梯町, 塩川町, 山都町, 西会津町	65,554	S25.9.5	
	国-3 日光国立公園	下郷町, 檜枝岐村, 西郷村	13,615	S9.12.4	
県立自然公園	県公-1 蔵王高原県立自然公園	白石市, 蔵王町, 七ヶ宿町, 川崎町	21	S22.2.8	
	県公-2 阿武隈渓谷県立自然公園	丸森町	4	S63.11.22	
	県公-3 霊山県立自然公園	相馬市, 霊山町	2,271	S23.10.18	
	県公-4 霞ヶ城県立自然公園	二本松市	170	S23.10.18	
	県公-5 南湖県立自然公園	白河市	777	S23.10.18	
	県公-6 阿武隈高原中部県立自然公園	いわき市, 川俣町, 岩代町, 船引町, 滝根町, 小野町, 大越町, 常葉町, 都路村, 浪江町, 葛尾村, 川内村	7,659	S28.3.14	
県立自然環境保全地域	県保-1 斗蔵山	角田市	28	S54.3.16	
	県保-2 仙台湾海浜	仙台市, 名取市, 岩沼市, 亶理町, 山元町	1,508	S48.8.17	
	県保-3 信夫文知摺	福島市	4	S49.3.22	シラカシ等の巨木、地形、地質
	県保-4 黒岩虚空蔵	福島市	2	S49.3.22	高樹齢のアカマツ林ほか
	県保-5 高松山	安達郡白沢村	6	S49.3.22	高樹齢のモミ、アカマツ林ほか
	県保-6 岩角山	安達郡白沢村	13	S49.3.22	ケヤキ等の人工林、岩石の露頭
	県保-7 石田ブヨメキ	伊達郡霊山町	10	S49.3.22	湿原、湿原植物
	県保-8 石筵	郡山市	52	S49.3.22	シダレグリの自生地
	県保-9 五本松	西白河郡矢吹町, 西白河郡泉崎村	1	S49.3.22	アカマツの並木
	県保-10 恩賜林	西白河郡矢吹町	8	S49.3.22	アカマツの一斉林
	県保-11 茶白山	伊達郡霊山町	8	S49.3.22	サクラ類の自生地
	県保-12 浄土松	郡山市	35	S50.2.28	アカマツ天然林、巨大な奇岩郡群
	県保-13 奥州街道松並木	郡山市	2	S50.2.28	アカマツの並木
	県保-14 西郷瀨	西白河郡西郷村	58	S50.2.28	渓谷、柱状節理
	県保-15 宇津峯山	郡山市, 須賀川市	356	S50.2.28	変成岩類の盆地上構造ほか
	県保-16 茂庭	福島市	862	S50.6.6	ブナ等の天然林
	県保-17 閑山	白河市	191	S50.6.6	石英安山質凝灰石の急峻な地形
	県保-18 深沢	郡山市	44	S56.7.28	ヒノキアスナロの天然林
緑地環境保全地域	緑保-1 愛宕山	亶理町	22	H5.8.31	
	緑保-2 深山	角田市, 山元町	312	S61.11.7	
	緑保-3 鳥峠山	西白河郡泉崎村	42	S49.3.22	鳥峠稲荷神社と一体となった自然環境
	緑保-4 白石山	西白河郡泉崎村	3	S49.3.22	泉崎壁面横穴古墳と一体となった自然環境
	緑保-5 赤坂	伊達郡保原町	2	S50.2.28	アカマツ, コナラ等の樹林地
	緑保-6 花見山	伊達郡保原町	3	S50.2.28	ヤマツツジの自生地
	緑保-7 堂山王子	田村郡船引町	1	S50.6.6	堂山王子神社と一体となった自然環境
	緑保-8 隠津島神社	郡山市	13	S52.10.28	隠津島神社と一体となった自然環境
	緑保-9 妙見山	郡山市	6	S52.10.28	飯豊和気神社と一体となった自然環境
	緑保-10 稚児舞台・島山	安達郡安達町, 安達郡東和町	10	S54.8.3	花崗岩の奇岩・怪石、ユキヤナギ
	緑保-11 古寺山	須賀川市	13	S55.6.13	古寺山白山寺と一体となった自然環境
	緑保-12 御幸山	伊達郡月館町	3	S56.7.31	五幸山観世音堂と一体となった自然環境